

2018年9月3日

2018年度

一般財団法人守谷育英会研究助成候補者推薦要領

1. 助成の趣旨・目的

当育英会の研究助成の趣旨・目的は、その研究成果が直接経済効果の対象とならない基礎科学分野に属する研究に対し、特に助成することを考えております。

従って、公的機関、大企業等で行っている先端技術の開発や大規模な研究を対象とするものではありません。

また、「研究助成金」という名称を付けておりますが、育英奨学金が学生の修学を支援することを目的としていると同様に、研究助成金は交付対象者が異なるだけで、研究者の研究を支援することを目的としております。従いまして、本助成金の使途として、研究者の方の所属する組織の研究支援経費、間接経費、一般管理費並びにオーバーヘッド等に使用することは認めておりませんのでご理解下さい。

2. 助成金候補者の資格

助成金候補者は、次の条件を具備する個人とします。

(学部生、大学院生及び研究生は対象外)

- ①東京都内の大学もしくは研究機関に在籍、または東京都内に居住し大学もしくは研究機関に在籍して、基礎的分野の学術研究に従事する個人であること。
- ②申請者の助成金交付の開始時の年齢が、原則として満40歳未満であること。

3. 助成課題（テーマ）

次のとおりとします。

- (1) 自然科学、特に動植物に関する基礎研究
- (2) 工学における基礎研究
- (3) 社会、環境、福祉等に関する基礎研究
- (4) 人文科学における基礎研究

4. 助成金額・交付期間

- ①1件当たり助成金額は、年間120万円を標準（1年間の標準限度額）とします。
- ②1件の研究題目に対し認める交付期間は、最大4年程度とします。
- ③助成件数は、年間、5件～10件とします。
- ④今年度の助成金総額は、3,000万円の予定です。

## 5. 助成金交付申請および推薦方法

- ①当育英会の所定用紙にて申請願います。
- ②推薦者は各大学の学部長、研究所長、または担当主任教授とします。  
但し、推薦件数は、1推薦者1件とします。
- ③交付申請及び推薦の締切日は、2018年12月25日(火)当日の消印まで有効です。
- ④過年度選考にもれた方も、再度申請することが出来ます。

## 6. 選考方法

- ①当育英会の選考委員会による書類審査及び面接の上、代表理事が決定します。
- ②選考結果は、2019年3月下旬、申請者及び推薦者に対し文書により通知します。

## 7. 助成金の交付と使用報告

- ①助成金は交付対象者の指定する銀行の口座に、原則として分割により振込みます。  
尚、助成金は分割交付を原則としますので、2回目以降の交付を受ける前に、中間報告書を提出願います。この中間報告がないと、2回目以降の交付を停止することがあります。  
また、虚偽その他不正な手続きによることが判明した場合は、既に交付した助成金の返還を求めることがありますのでご注意願います。
- ②助成金の使途は研究目的を達成するために必要なものであれば概ね自由としますが、その使途についての報告書を当育英会宛に提出願います。
- ③新規の交付対象者の研究期間が2～4年に亘る場合には、最初の1年間の助成金を支給し、翌年度に1年間の研究成果報告書を添付の上、改めて申請書を提出して頂き、研究成果を評価して、2年目以降の助成金を支給するか否かを決定致します。

## 8. 研究成果の報告

当育英会に研究成果報告書を提出願います。学術論文の抜刷や、講演会における講演概要でも結構です。

※ 提出された交付申請書は、ご返却致しかねますのでご了承下さい。

尚、添付資料はご要望によりご返却致します。

※ 申請書は最新版(2018年8月更新)を使用して下さい。以前の申請書は受付致しかねます。

### 《個人情報取り扱いに関して》

当財団は、ご提出頂いた申請書に記載された個人情報を、選考や事務連絡に使用致します。  
また、収集した個人情報は適正に管理し、ご本人の同意なく無断で第三者に提供することは致しません。

### 《応募先および問い合わせ先》

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-4-22  
一般財団法人 守谷育英会  
TEL: 03-3271-2734

## 研究助成金交付申請書

一般財団法人 守谷育英会 御中

年 月 日

下記の研究について、助成金の交付を申請します。

氏名 \_\_\_\_\_

### 研究分野（該当に○印）

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 自然科学、特に動植物に関する基礎研究   | 4. 人文科学における基礎的調査研究    |
| 2. 工学における基礎研究           | 5. その他上記項目に関する基礎的調査研究 |
| 3. 社会、環境、福祉等に関する基礎的調査研究 |                       |

### 研究テーマ

### 研究目的（内容はできるだけ平易に記述して下さい。）

### 研究方法

### 研究の期間

### 研究の学術的価値

### 研究の社会的有用性

この研究は日本又は外国で既に行われていますか。

この研究の終了後、今後の進むべき方向はどのように考えていますか。（希望又は夢でも可）

研究費総額		年間 合計	万円 ( 確定 ・ 見込 )	
他機関からの助成 ( 有 ・ 無 )		有の時	万円	機関名
助成希望金額		使途予定 ( 具体的に )		
1. 設備備品			万円	
2. 消耗品費			万円	
3. 旅 費			万円	
4. 謝 費			万円	
5. その他			万円	
希望額合計			万円	
交付希望時期	初回 ( 年 月 )		万円	中間報告書提出予定
	2回目 ( 年 月 )		万円	中間報告書 年 月
	3回目 ( 年 月 )		万円	中間報告書 年 月
	4回目 ( 年 月 )		万円	中間報告書 年 月
				最終報告書提出予定
				最終報告書 年 月
この研究に関連する研究に対し、過去3年以内に他機関からあった助成について				
研究機関	研究テーマ	金額	期 間	
文部科学省科学研究費				
国公立機関委託研究費				
財団等の助成金				
研究業績 ( 関連する研究論文があれば、抜刷を1部添付して下さい。 )				
年 月 日	論文または著書のタイトル	掲 載 紙	主 要 内 容	



推薦者氏名	印	職名	
研究機関 (所属)		学位	

推薦理由（自筆にてお願い致します。）

1. 研究開発の必要性
  
2. 目的実現の可能性
  
3. 研究助成の緊急性
  
4. 研究の社会的有用性
  
5. 上記各項目以外で、当育英会の助成金を受けるに当たり、必要な事項

## 研究助成事業

助成の対象となった研究テーマは次の通りです。

### (1) 2014年度(10件)

- ① 日本のメディアにおける謝罪の画一化—個人主義社会と集団主義社会で現れる謝罪会見の差異
- ② 亜高山帯針葉樹における茎の水輸送能力の維持機構を明らかにする
- ③ 彫刻文化財の時代的特性を把握するための模造制作研究
- ④ 関節角度および足底圧を入力とする残存能力推定を用いた下肢装具支援量決定モデルの構築
- ⑤ 野生動物装着型センサを用いた省電力な空間情報センシング機構
- ⑥ 脊髄小脳変性症の発症メカニズムの解明
- ⑦ 腸内細菌および宿主によるD-アミノ酸制御の生理的意義の解明
- ⑧ 摩擦攪拌接合プロセスのリアルタイム微小欠陥モニタリング法の開発
- ⑨ 刺毒魚のもつ毒成分の分布と構造の解明
- ⑩ Hippo pathwayの骨形成過程における時空間的な制御機構の解明

### (2) 2015年度(8件)

- ① 晩成性鳥類の抱卵行動における26RFaペプチドホルモンの関与
- ② 伝統的磁器彩色技法“赤絵”の新展開～自然と伝統材料に学んだ赤色顔料の色制御～
- ③ ヒゲクジラ類を中心とした鯨類の骨盤、後肢痕跡の形態学的研究
- ④ SPR現象を利用した超高感度検出による耐薬品性能に寄与するDLC膜の構造特定
- ⑤ 摩擦攪拌接合プロセスのリアルタイム微小欠陥モニタリング法の開発
- ⑥ 亜高山帯針葉樹における茎の水輸送能力の維持機構を明らかにする
- ⑦ 鉄細菌由来と推定される日本古来の赤色顔料パイプ状ベンガラ生成・発色機構の解明
- ⑧ 脊髄小脳変性症の発症メカニズムの解明

### (3) 2016年度(7件)

- ① 伝統的磁器彩色技法“赤絵”の新展開～酸化鉄とフリット融液の反応制御による赤絵の色制御～
- ② 生体の恒常性維持を統御する重力感知システムの解明
- ③ ミンククジラの形態学的基礎研究 ～特に亜種・系群間の違いについて～
- ④ 古典木彫像修復に際しての復元考察資料の収集と蓄積
- ⑤ 繊維状ウイルスからなる高機能ハイドロゲルの創製
- ⑥ SPR現象を利用した超高感度検出による耐薬品性能に寄与するDLC膜の構造特定
- ⑦ 民俗芸能衣装の製作と民間伝承に関する調査研究 —「番楽」翁衣装の事例から—

### (4) 2017年度(4件)

- ① 黒曜石の磁気物性による産地分析法の開発
- ② 生物の恒常性を維持する重力感受機構の解明
- ③ 繊維状ウイルスを素材とした液晶性分離膜の創製
- ④ 民俗芸能衣装の製作と民間伝承に関する調査研究 —「山伏神楽・番楽」翁衣装の事例—